

# 人生で3回大学に入る社会を創る —吉見俊哉先生(東京大学教授)にインタビュー—

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長  
桐蔭横浜大学 教授

<http://smizok.net/>  
E-mail [mizokami@toin.ac.jp](mailto:mizokami@toin.ac.jp)

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長(2020-2021年)。京都大学博士(教育学)。

\*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。  
公益財団法人電通育英会の助成を受けて行われています

## (ご紹介)

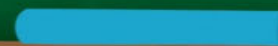
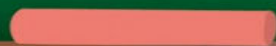


東京大学大学院 情報学環 教授

東京大学大学院社会学研究科博士課程単位取得退学  
専門：社会学・文化研究・メディア研究

吉見俊哉

よしみ しゅんや



# No27

## #2 生涯学習社会における大学の の転換ー近代学校を超えて



ー辻本雅史先生(京都大学名誉教授、中部大学)に  
インタビュー

◆少而學、則壯而有為、  
壯而學、則老而不衰、  
老而學、則死而不朽。

佐藤一斎「三学戒」『言志晩録』60

少にして学ばば則ち壯にして為すことあり、  
壯にして学ばば則ち老いて衰へず、  
老にして学ばば則ち死して朽ちず。

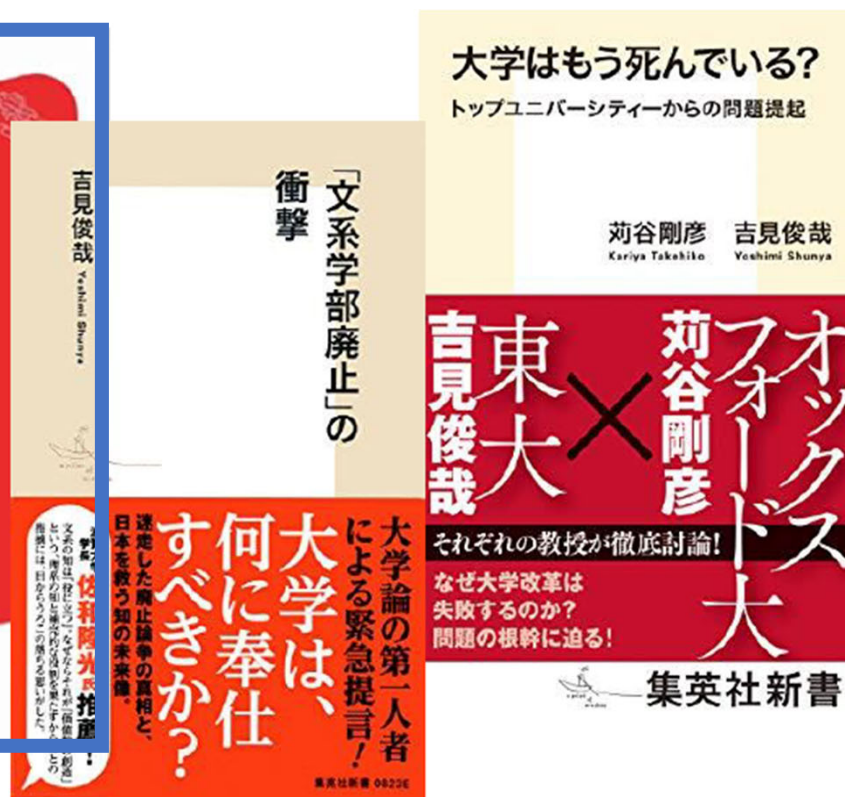




## 関連著書の紹介



吉見俊哉 (2011). 大学とは何か 岩波新書



吉見俊哉 (2021). 大学は何処へ—未来への設計— 岩波新書

それではご覧ください

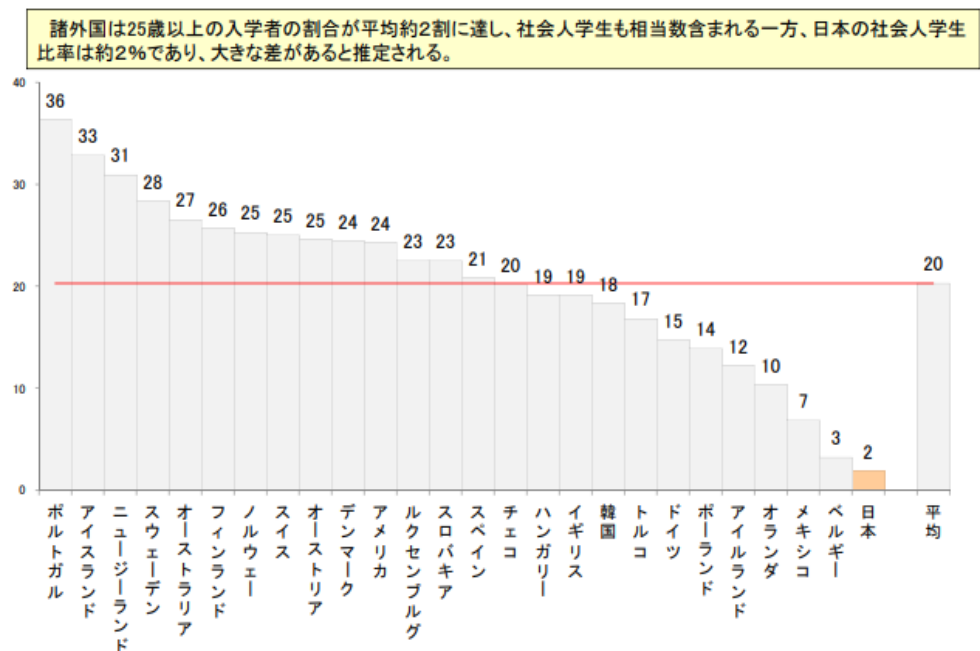
# 日本の大学の盲点：社会人学生比率

- 日本の大学の社会人学生比率の尋常ならざる低さ！  
25歳以上入学者は2.5%、OECD25国中24位（ほぼ最下位）
- 「通過儀礼」装置としての大学（入試休暇、就活準備）  
⇔ 「キャリアチェンジ」装置としての大学
- 数多のデメリット：

- 異質性への感覚の弱さ
- 社会人のマイノリティ化
- 社会的現場との遠さ
- 大学は高校の延長？
- 志願者マーケティング

- ← 入試の神聖化
- ・ 出口管理不在

25歳以上の学士課程への入学者の割合（国際比較）



# 人生/大学のマルチステージ化: 3回大学に入る

- 1回目: 18~21歳
- 2回目: 30~40歳代
- 3回目: 60歳前後

就職後、現場経験を積み、管理職に道を歩むか、全く違う道に挑戦するかの転期。その時、もう1回大学に入り直し、何かを学んで違う人生を歩んでいく。

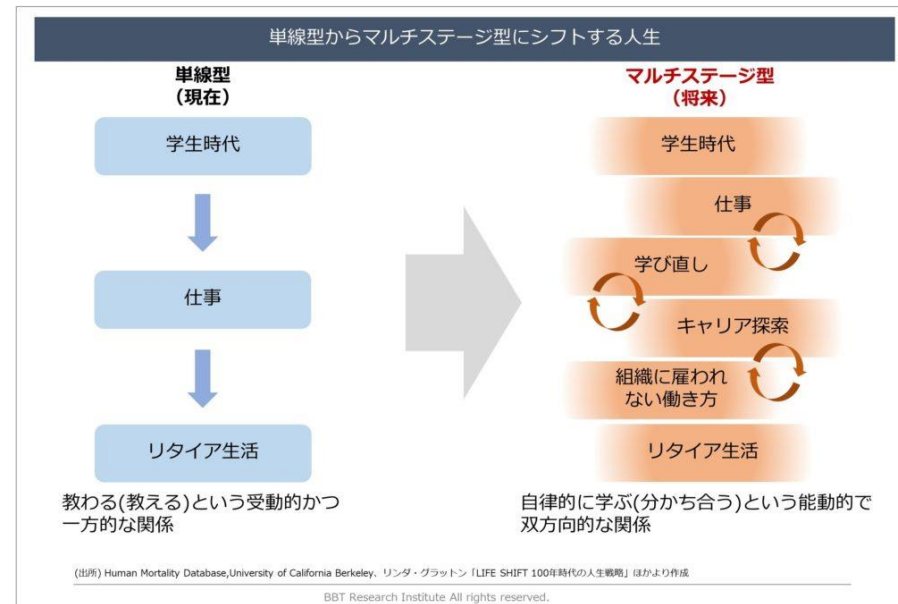
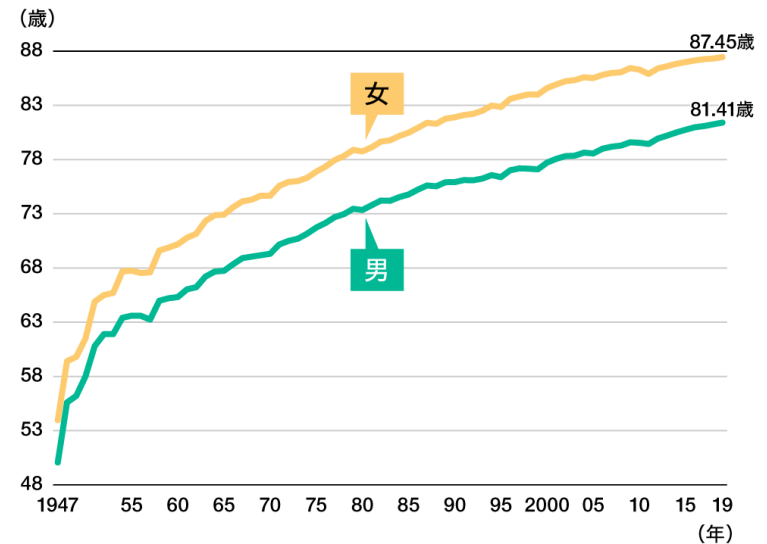
職場のキャリアを終え、定年が見える。しかし、今は75~76歳まで元気。厳しくても何か全く違う人生に挑戦する。



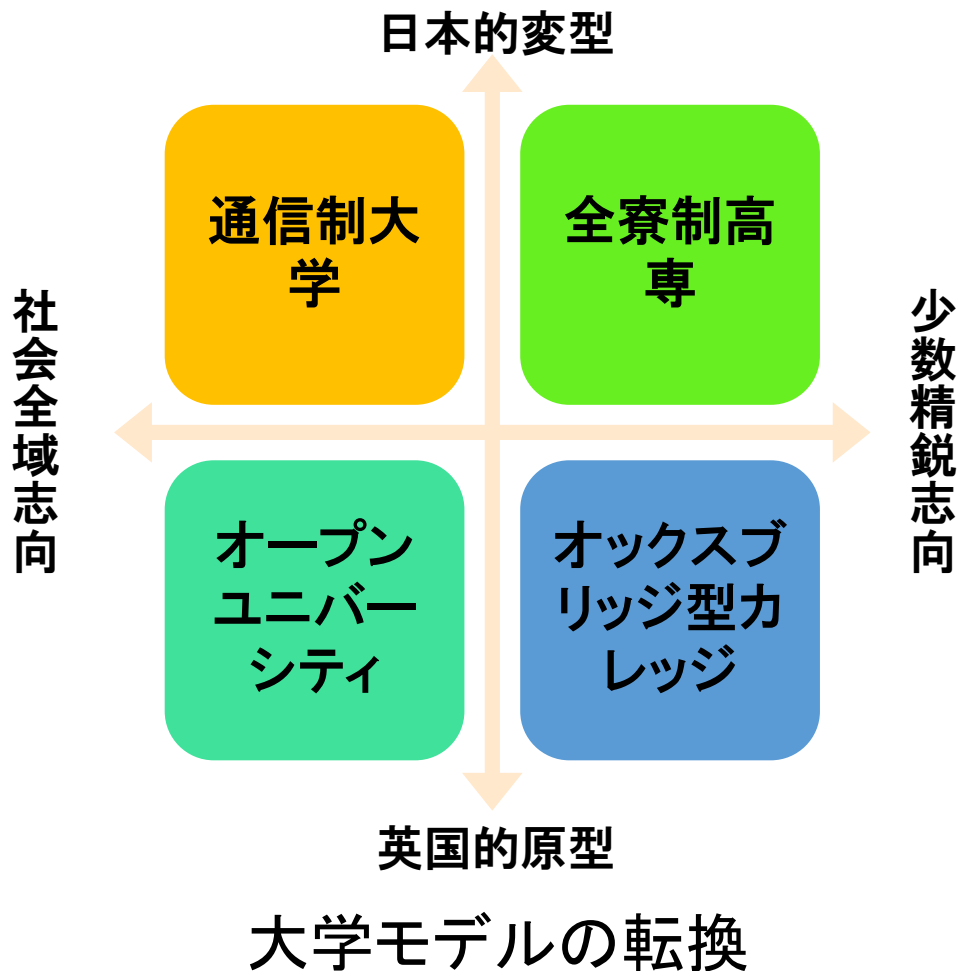
**日本社会の単線年齢中心主義**

**大学の学びと職業の無対応性**

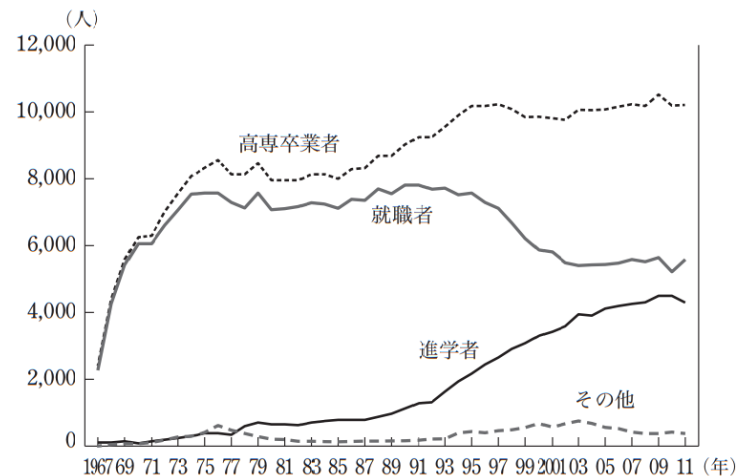
平均寿命の推移



# 高等教育の複線的・異質的体制へのヒント

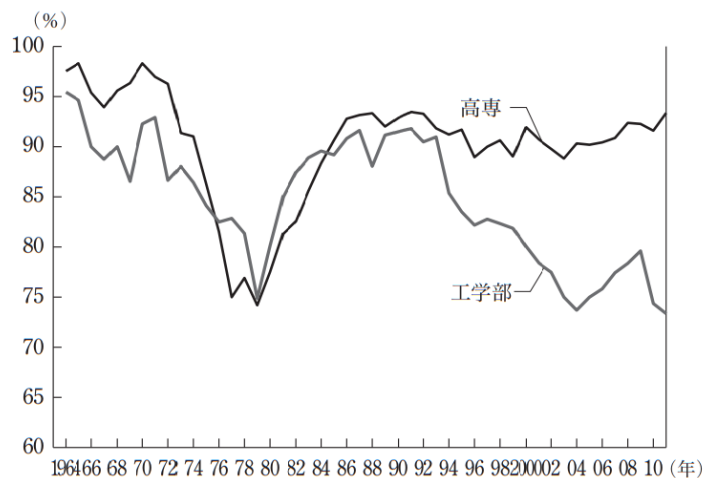


頂点としての東大  
大学教育を劣化・均質化させてきた入試信仰



(出所) 新谷康浩「データで見る高専」(『IDE 現代の高等教育』2012年10月号)より作成。

図5-7 高専卒業者の進路

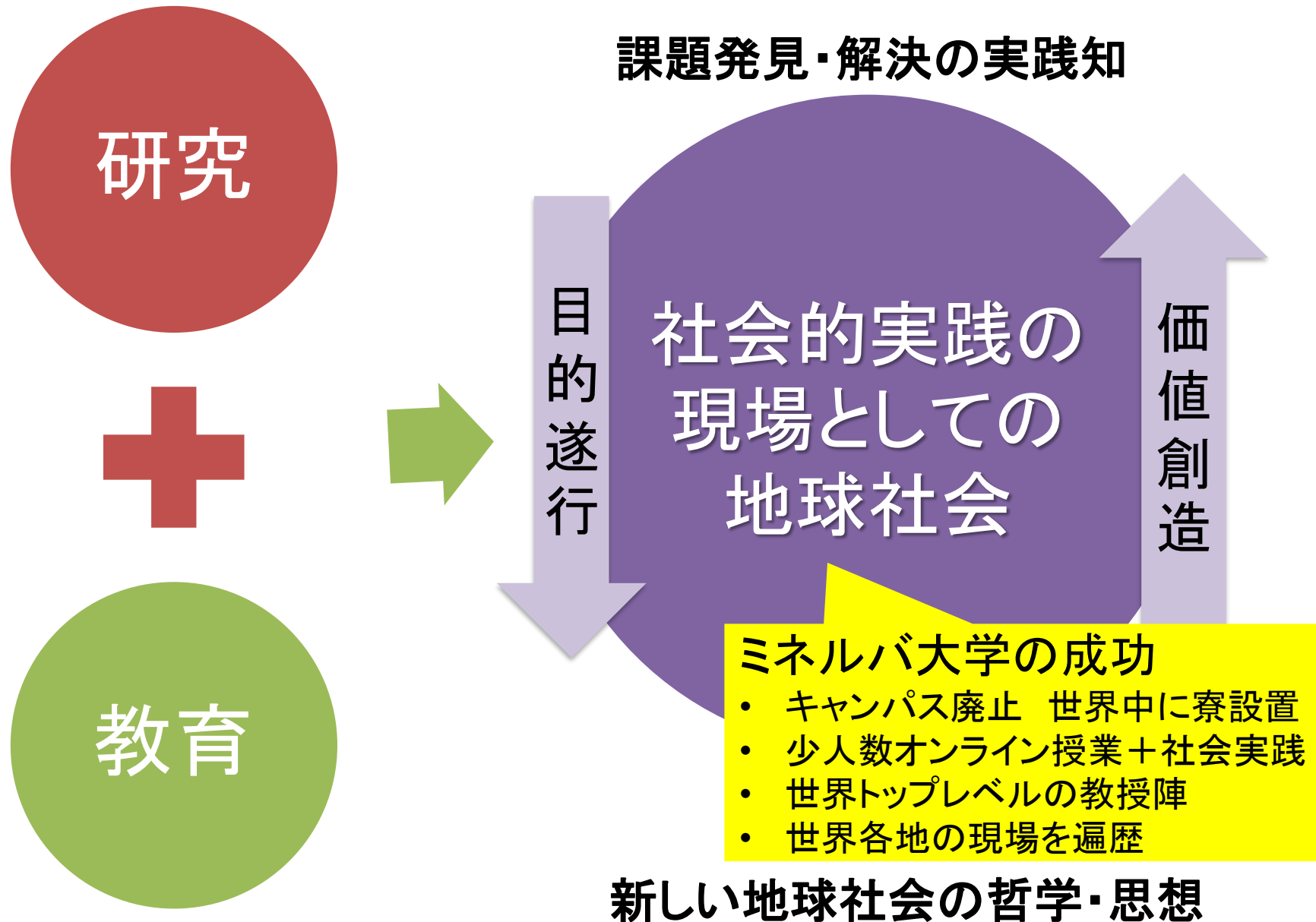


(出所) 図5-7に同じ。

図5-8 専門的技術的職業就職率の推移



# 次世代大学の第3の輪としての社会実践



# トランスナショナルに旅する大学の拡大

- 米国におけるダブルメジャー履修の拡大：
  - 学部生の25~40%:コースワーク+2つの専門
  - 典型的パターン:外国語+国際関係論/経済学+工学
  - 卒業後の収入アップ:離れた2つ>近い2つ>大学院
- ボローニャ・プロセス+エラスムス・プロジェクト
  - ボローニャ宣言(1999、47ヶ国)⇒汎欧州的教育圏構築
  - 全欧州的に通用する共通の学位制度、単位互換制度
  - 学生と教員の国を越えた移動=エラスムス(1987~):  
190万人の学生、9割の大学が参加(欧州委員会+大学本部)
  - 「ヨーロッパ的思考」を育てるカリキュラム構築
- Online+Hybrid Transnational Education(TND)の急拡大
  - オーストラリアの大学による東南アジア圏大学生への高等教育
  - より安価にオンラインをフルに活用してグローバル教育を提供

複数学部  
への所属

複数大学  
への所属

**越境する学生・教師・知**

高等教育の複線構造化とグローバル化

新たな旅の時代=第一世代の大学に似る第三世代

# 「ユニヴァーシティ＝大学」の起原

## ● 中世都市ネットワークの復活とユニバーシティの誕生

ボローニャ大学(1158) ←神聖ローマ帝国皇帝

パリ大学(1231) ←ローマ教皇

←イスラムの大学が先行:アル＝カラウィーン大学(859 フェズ/モロッコ)

→ アル＝アズハル大学(970):リベラルアーツ、  
ニーザミーヤ学院(11世紀後半):官僚養成

## ● ユニヴァーシティ＝教師と学生の協同組合

←移動する人々(商人、聖職者、知識人) ⇔ 都市支配層

⇒教皇権・皇帝権の利用による特権

⇒「リベラルの知」の場としての大学(リベラルアーツ:自由七科)

→宗教改革:ウイクリフ、フス、ルターの聖書主義

**移動の自由**(学問の旅:ローマ→イスラム→西洋)

# 日本における「大学」(単線の頂点)の起原

## ● 日本における「大学」の起源: **大学寮** (8世紀初頭)

全寮制、官僚養成を目的 ⇒ 卒業生は国司等へ  
大学頭: 学長、博士: 教授、試験合格者に奨学金  
儒教、算術、漢文(中国語=発音+読み書き)の授業  
+(後に)法学

← 後漢:「太学」⇒ 隋唐:「国子監」

専門技術者養成: 典薬寮、陰陽寮、雅楽寮.....

cf. 4世紀: 高句麗で「太学」設立

⇒「大学別曹」(私学)の優勢化

~古代的「大学」の死滅

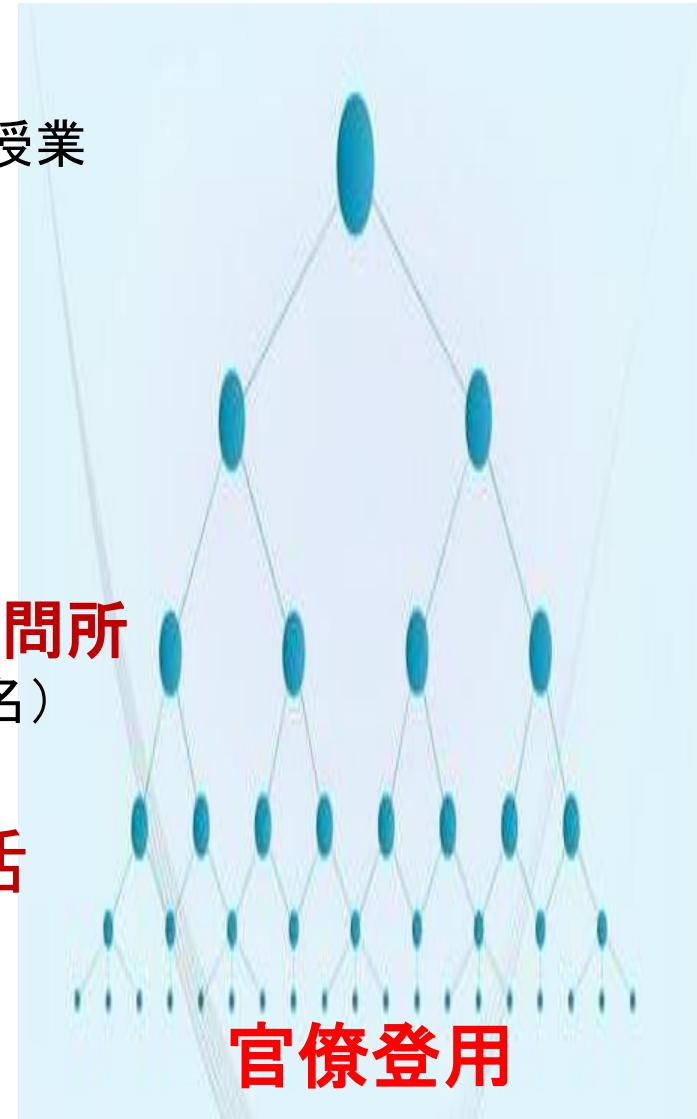
## ● 林羅山の儒学再興(17世紀): **昌平坂学問所**

(江戸時代における「大学頭=林家当主」=官職名)

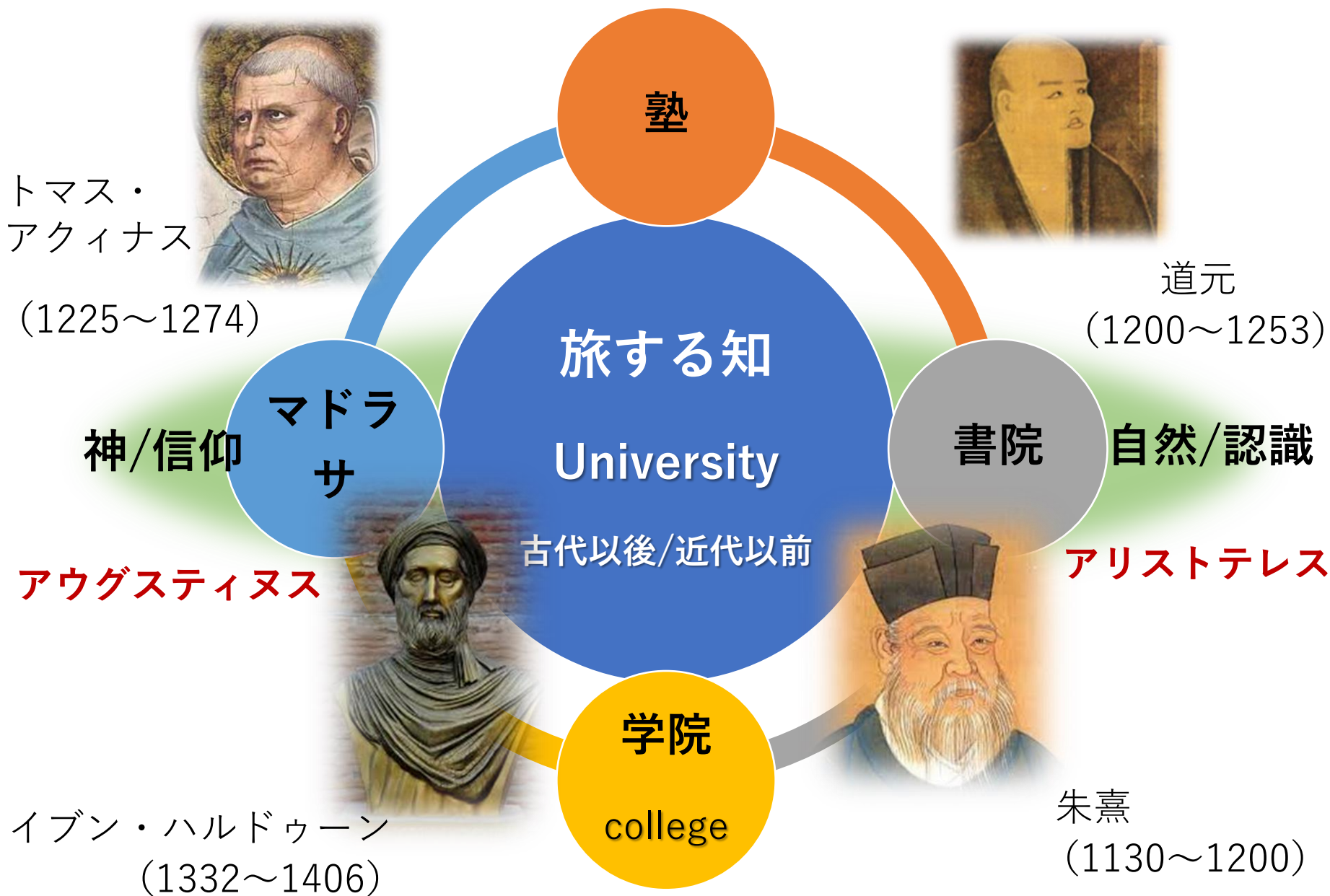
## ● 明治維新= **王政復古**で「大学」復活

⇔ 塾、学院、出版

(福沢『学問のすゝめ』の大学批判)



# グローバルなく中世と旅する学院の発達





# 私塾：旅する知識人が形成した学びの場

- 日本における旅する僧・文人：西行～道元～芭蕉
- 旅する知識人 → 学びの場：禅宗、儒教、洋学、国学～留学
- **書院** (←中国の書院)：藤樹書院(中江藤樹 1639年、近江)、古義堂(伊藤仁斎 1662年、京都)、懷徳堂(中井昞庵 1724、大阪)、咸宜園(広瀬淡窓 1805、大分)……
- **私塾**：専門知の私的教育 ⇔ 藩校、寺子屋のいずれとも区別  
江村北海の樹梢館(京都)、緒方洪庵の適塾(大阪)、佐久間象山の象山書院(江戸)、福沢諭吉の慶應義塾(江戸)、近藤真琴の攻玉塾(東京)、吉川泰次郎の東奥義塾、津田梅子の津田塾、中村敬宇の同人社、箕作秋坪の三叉学舎(英仏学)、尺振八の共立学舎(洋漢学 スペンサー＝社会学)
- **郷学**：早川八郎左衛門の典学館(美作久世)・敬業館(備中笠岡)・遷善館(武蔵久喜)、五惇堂(伊勢崎)、含翠堂(摂津平野)、足利学校、閑谷学校